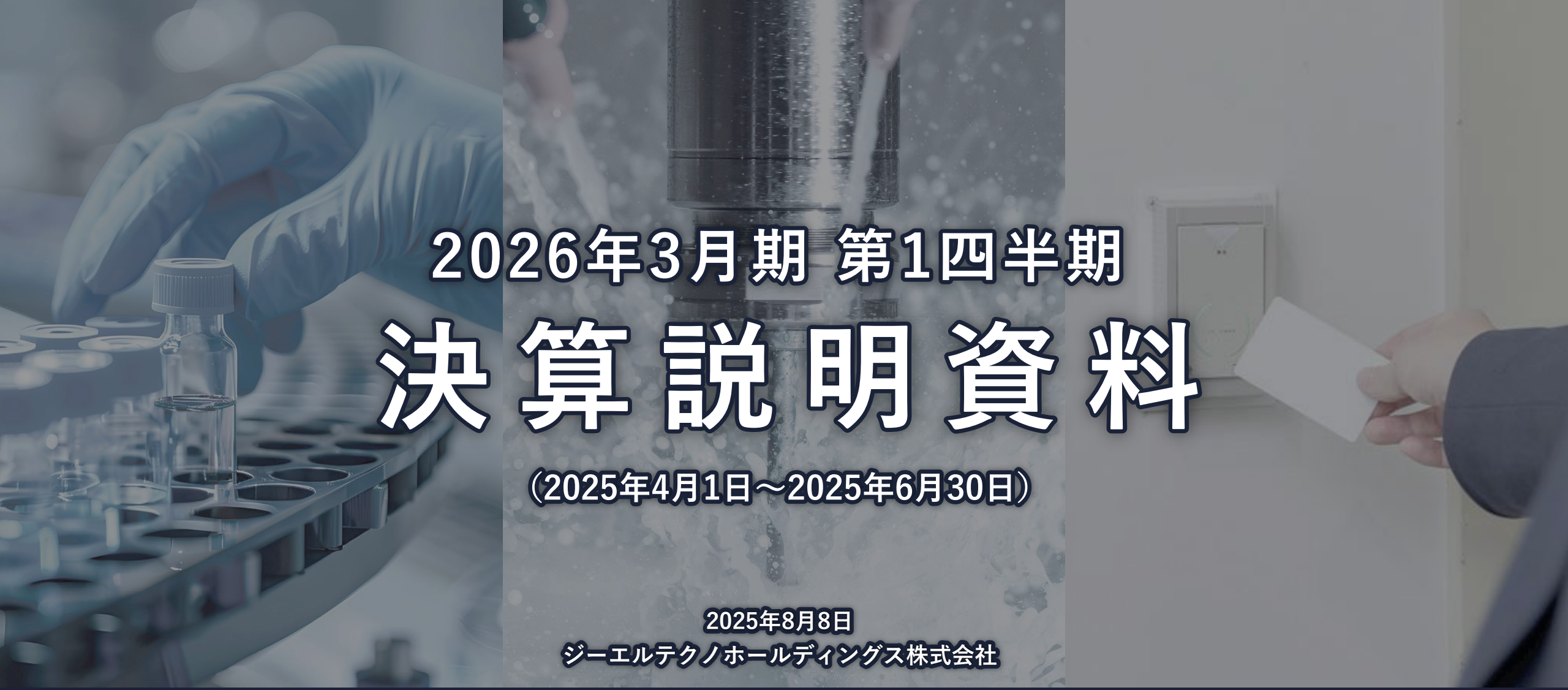


2026年3月期 第1四半期
決算説明資料

（2025年4月1日～2025年6月30日）

2025年8月8日
ジーエルテクノホールディングス株式会社

東証STD 255A

GLTECHNO HOLDINGS

01. 事業概要 … P. 3
02. エグゼクティブサマリー … P. 6
03. 決算概要（2026年3月期 第1四半期） … P. 9
連結 … P. 9
セグメント別 … P. 11
04. 業績・配当予想（2026年3月期） … P. 24
05. APPENDIX … P. 29

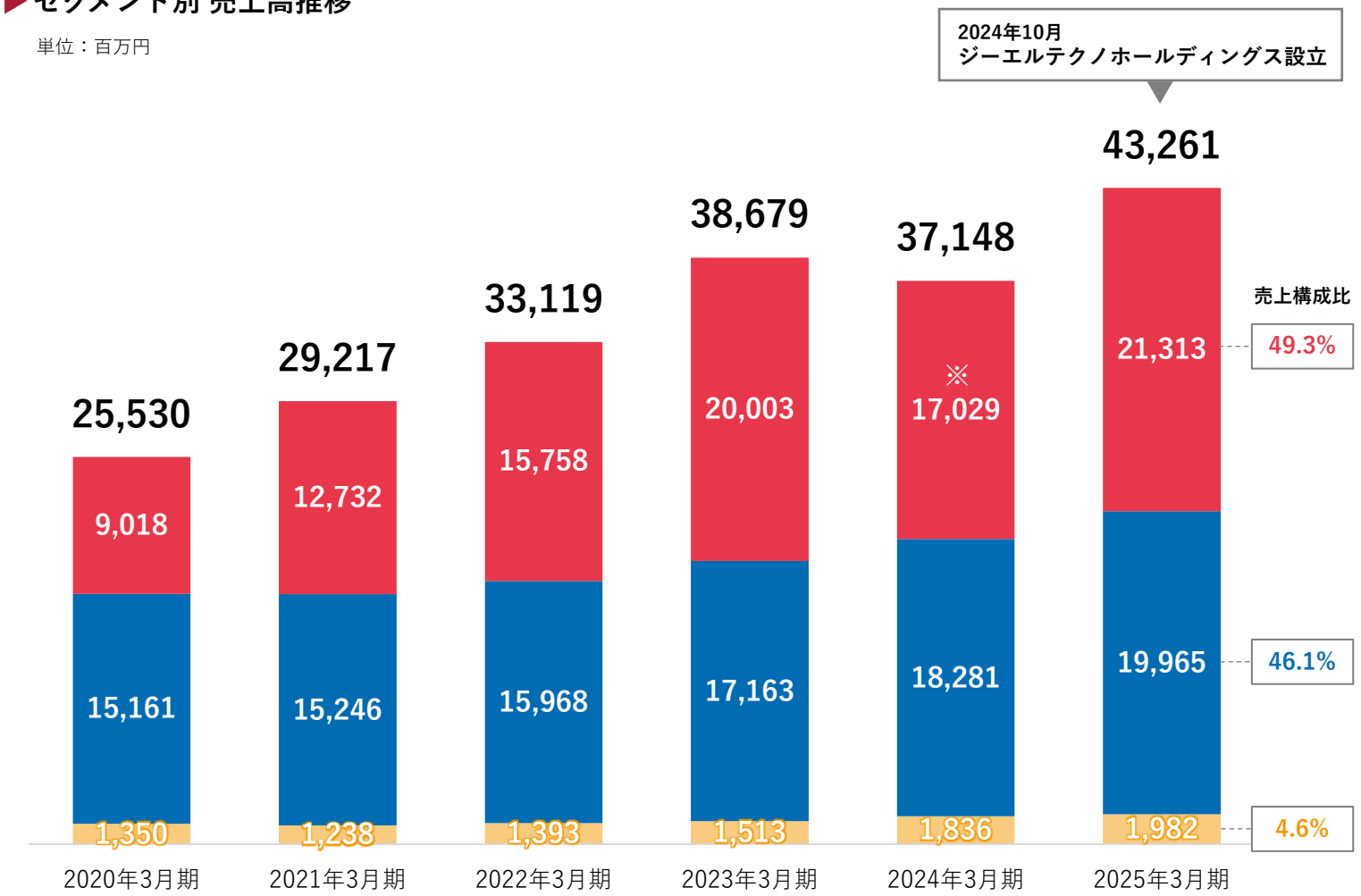
© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

01. 事業概要

社会を支える３つの事業で築く堅実な成長基盤と売上成長

▶セグメント別 売上高推移

単位：百万円



半導体事業

テクノクオーツ株式会社

半導体製造装置用の高純度石英ガラスと結晶シリコンパーツを主力とした半導体関連製品の製造・販売

Point　半導体製造装置の稼働量と急伸を背景に大きく成長

分析機器事業

ジーエルサイエンス株式会社

分析装置や、その装置に欠かせないカラムなど各種消耗品の企画、開発、生産、販売、サポートまでを一貫対応

Point　景気の波に左右されにくく堅実に成長

自動認識事業

ジーエルソリューションズ株式会社

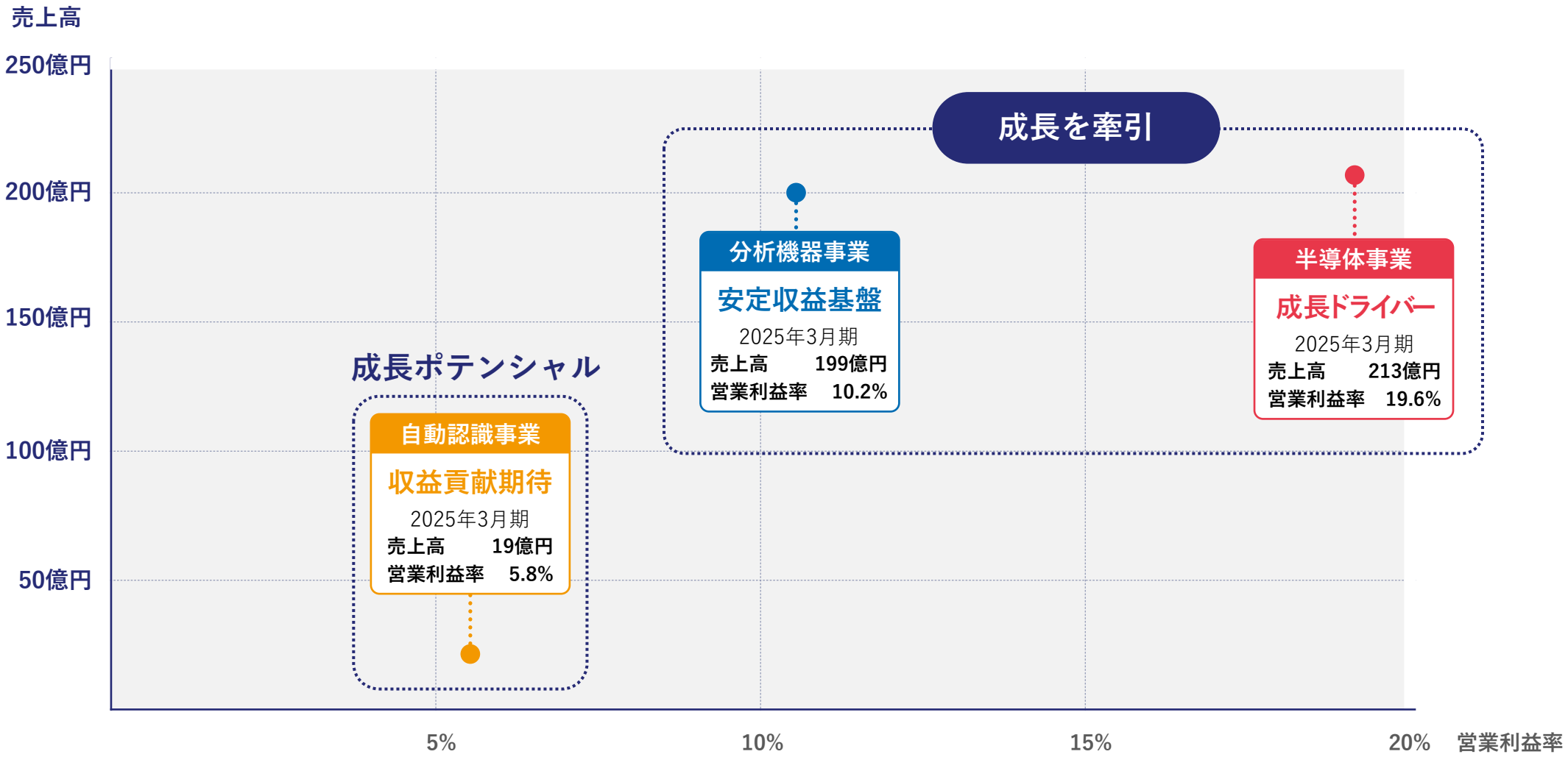
ICタグの情報を非接触で読み書きする「自動認識技術(RFID)」のパイオニア企業として、関連製品を製造・販売

Point　IoTが各分野に浸透していく中でニーズが拡大

※ 2024年3月期 半導体事業売上高は、パソコンやスマートフォン向け需要の減退に伴うメモリ在庫の停滞の影響で減収

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

“安定の分析機器事業”と“成長の半導体事業”のダブルエンジンで着実な収益拡大を目指す



© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

02. エグゼクティブサマリー

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

2026年3月期 第1四半期

増収・減益

売上高

10,454 百万円

（前年同期比 +11.7%）

半導体事業が売上を牽引し、前年同期比増収

営業利益

1,288 百万円

（前年同期比 ▲12.5%）

前年度における半導体事業の棚卸資産計上基準の変更による影響に加え
各事業の売上原価及び販管費が増加し、前年同期比減益

2026年3月期 業績予想及び配当予想

通期業績・配当予想は前回発表時から変更はなく、
前期比**増収・増益・増配**の見込み

売上高	営業利益	配当予想
44,700 百万円	6,680 百万円	111 円
（前期比 +3.3%）	（前期比 +5.3%）	（前期比 +4円）

TOPICS

✓ **分析機器事業における生産棟(埼玉県入間市)の竣工**

中期経営計画で掲げる
「成長を加速させるための戦略的な大型投資」に基づき実行

✓ **半導体事業におけるベトナム現地法人を設立**

世界的な半導体需要の高まりに対応するため、
成長に向けた50億円の投資を実行

※ 本資料全体にわたり、増減比算出基準の前期実績は経営統合前のジーエルサイエンス株式会社のものです

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

分析機器事業

増収・減益

- ✓ 中国経済の停滞及び北米における前年同期の特需の反動が主に影響したものの、売上は前年並みに推移

売上高

4,274 百万円

前年同期比 +1.7%

営業利益

293 百万円

前年同期比 ▲6.5%

半導体事業

増収・減益

- ✓ 豊富な受注残高と工場高稼働率を背景に売上は伸長
- ✓ 前年度の棚卸資産計上基準の変更や物価高騰の影響により減益

売上高

5,758 百万円

前年同期比 +20.6%

営業利益

997 百万円

前年同期比 ▲13.4%

自動認識事業

増収・減益

- ✓ 化学関連および物品管理関連システムの受注が好調
- ✓ 低利益率案件、人材投資増加の影響で減益

売上高

421 百万円

前年同期比 +10.0%

営業利益

▲8 百万円

前年同期比 -

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

03. 決算概要（連結）

2026年3月期 第1四半期

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

増収・減益

- 売上は、主に半導体事業の豊富な受注残高と工場の高稼働率が貢献し、前年同期比11.7%の増収
- 営業利益は、前年度における半導体事業の棚卸資産計上基準の変更による影響や、各事業における売上原価及び販管費の増加により、前年同期比12.5%の減益

単位：百万円	2025年3月期1Q		2026年3月期1Q		前年同期比	
	実績	売上比率	実績	売上比率	増減率	増減額
売上高	9,360	-	10,454	-	＋11.7%	＋1,094
売上原価	5,816	62.1%	6,949	66.5%	＋19.5%	＋1,133
売上総利益	3,544	37.9%	3,504	33.5%	▲1.1%	▲39
販管費	2,073	22.1%	2,216	21.2%	＋6.9%	＋143
営業利益	1,471	15.7%	1,288	12.3%	▲12.5%	▲183
経常利益	1,618	17.3%	1,349	12.9%	▲16.7%	▲269
親会社株主に帰属する四半期純利益	802 ※1	8.6%	948	9.1%	＋18.3%	＋146

※1 経営統合前の上期は一部が非支配株主に帰属

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

03. 決算概要（セグメント別）

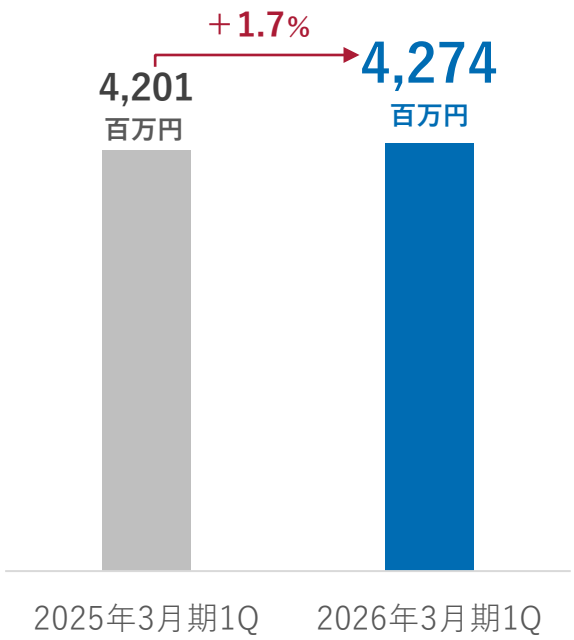
2026年3月期 第1四半期

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

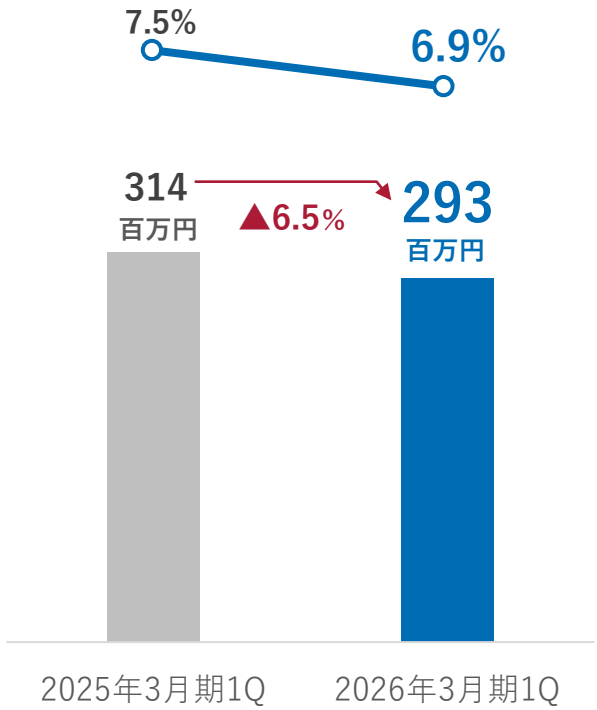
増収・減益

- 売上は、中国経済停滞の影響に加え、北米においては前年同期に特需があった反動で減少したものの、売上が底堅く推移し、前年同期比1.7%の増収
- 営業利益は、国内で他社装置の売上が好調であった一方で、北米で高利益率の自社製品の売上が減少したため、前年同期比6.5%の減益

売上高



営業利益（率）



要因・その他

国内　売上高比率 74.8%

装置類： 製薬企業や食品分野向けを中心に堅調に推移し、**高速液体クロマトグラフや質量分析計**などが売上を牽引

消耗品： **幅広い製品群**が好調。 液体クロマトグラフ用カラムだけでなく、固相抽出カートリッジ、試料調製容器なども好調

海外　売上高比率 25.2%

- 主力製品である液体クロマトグラフ用カラムを中心に自社製品の拡販活動を展開するも、**中国経済の停滞及び北米における前年同期の特需の反動が影響**

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

北米においては、主に前年同期に特需があった反動が影響し減収となったものの、国内売上は、底堅い需要により堅調に推移

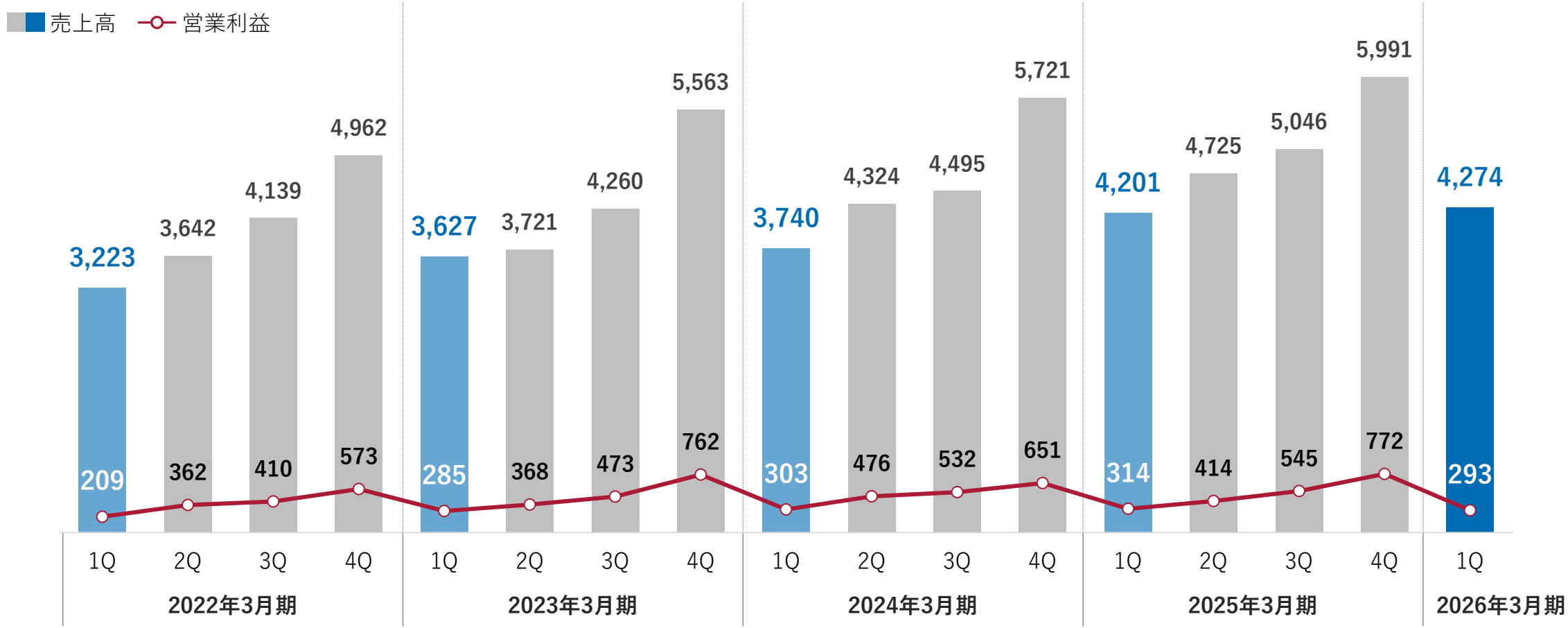
単位：百万円	2025年3月期 1Q	2026年3月期 1Q	前年同期比 増減率	前年同期比 増減額	2026年3月期 1Q 構成比
国内	3,117	3,197	+2.6%	+80	74.8%
海外	1,083	1,076	▲0.7%	▲7	25.2%
北米	151	115	▲23.5%	▲35	2.7%
アジア	680	688	+1.1%	+7	16.1%
その他	252	273	+8.2%	+20	6.4%
合計（国内+海外）	4,201	4,274	+1.7%	+73	100.0%

※ 米国関税の影響については、こちらのリリースをご参照ください。
https://www.gltechno.co.jp/ir/library/haghgb00000003vs-att/20250430_1.pdf

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

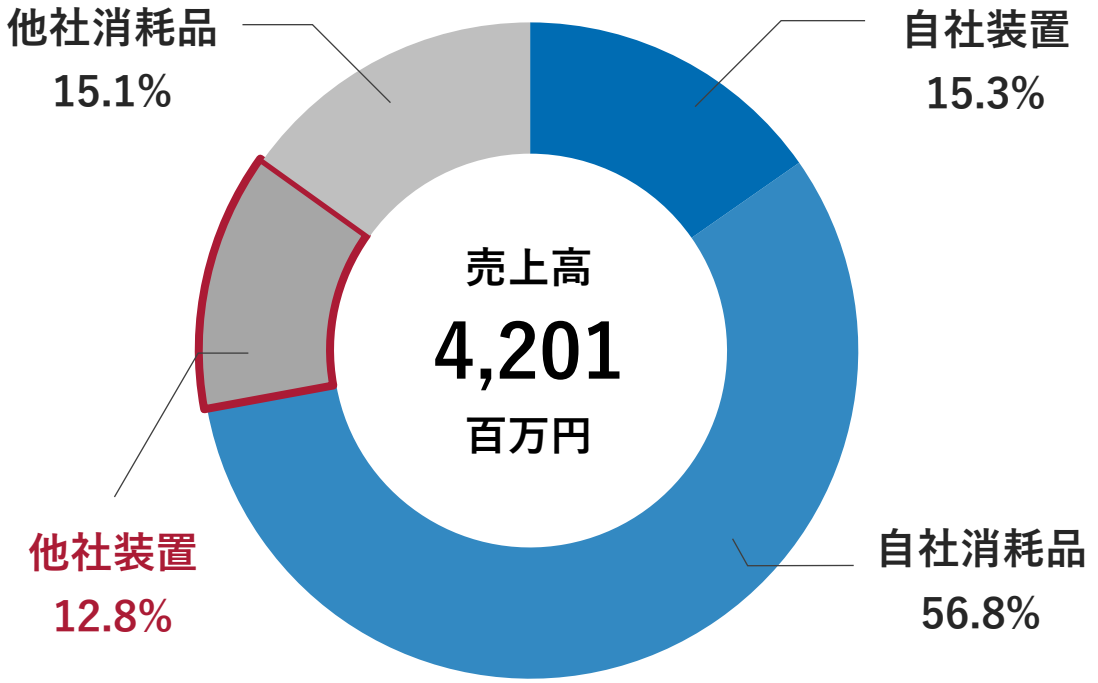
国内販売の売上計上タイミングが期末に集中するため、下期偏重の傾向

単位：百万円

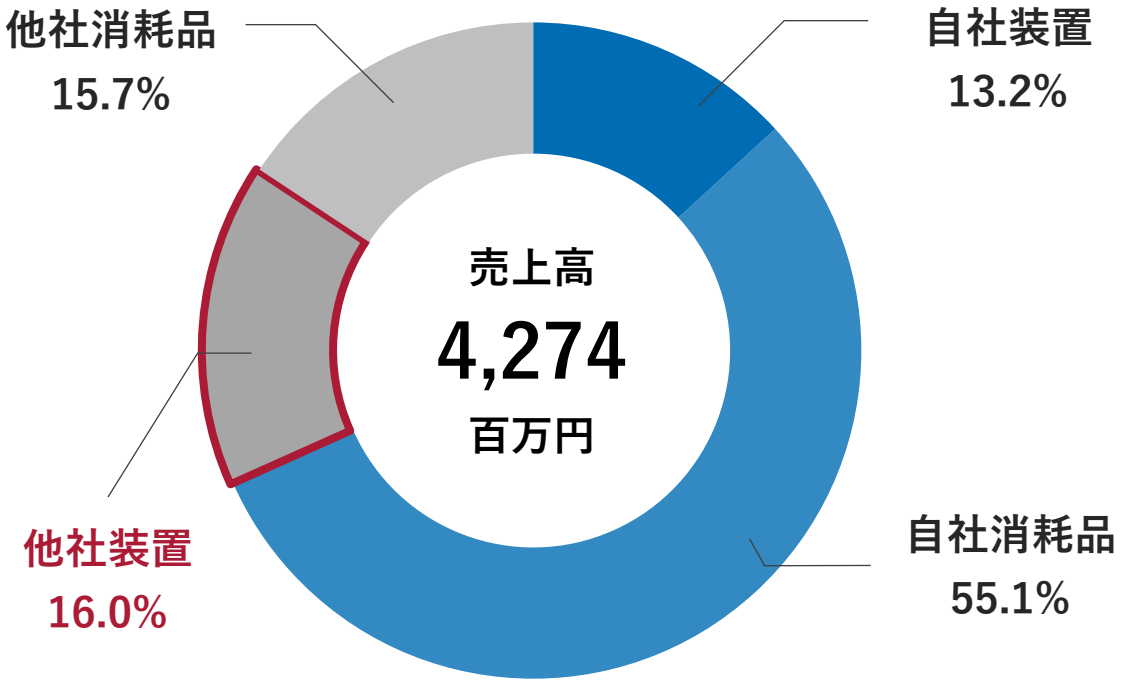


他社装置の売上比率が前年同期比にて3.2ポイント増加し、分析機器事業の売上を牽引

2025年3月期 1Q



2026年3月期 1Q



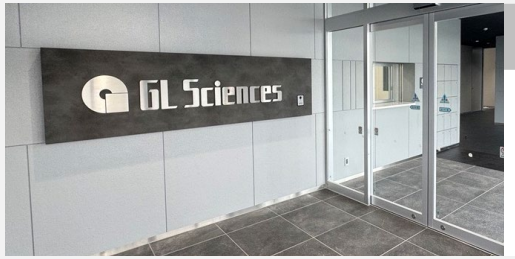
＋3.2pt

埼玉県入間市における生産棟の竣工

「成長を加速させるための戦略的な大型投資」の第一弾である、生産棟の竣工をいたしました。
カスタムGC（ガスクロマトグラフ）の生産能力の拡充、新製品の開発拠点として稼働することで、近年複雑化・高度化している顧客ニーズに柔軟に対応いたします。

完全稼働時に見込むことができる将来効果

- ✓ 生産能力は既存武蔵工場比にて**約3倍**
- ✓ 受注の変動や納期短縮に**柔軟に対応可能に**
- ✓ 作業効率改善に伴う**利益率の向上**



概 要

名称	クリエイティブバリューセンター	面積	敷地 8,366㎡ 延床 3,543㎡
所在地	埼玉県入間市	主な用途	カスタムGC（ガスクロマトグラフ）の製造拠点拡充と新製品の開発
竣工日	2025年7月31日	投資額	12億円

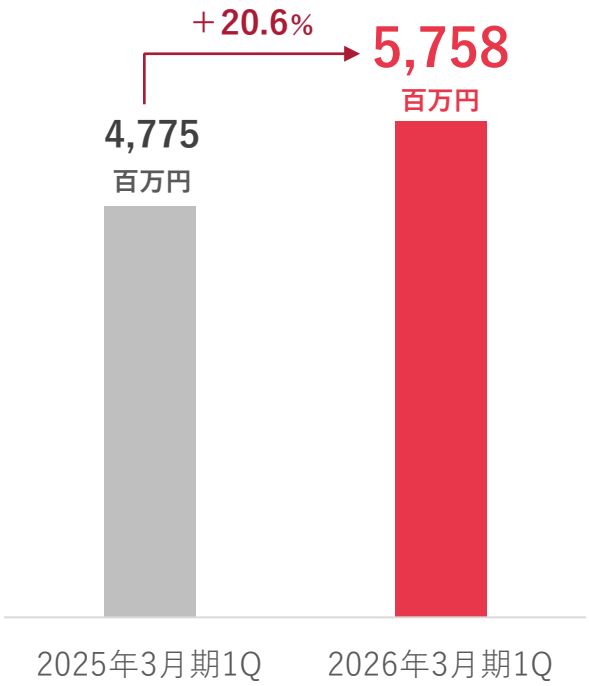
関連情報：ジーエルテクノホールディングス株式会社 中期経営計画（2025年3月期～2027年3月期）
https://www.gltechno.co.jp/ir/management/c0copc0000000ceo-att/plan2025-2027_all.pdf

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

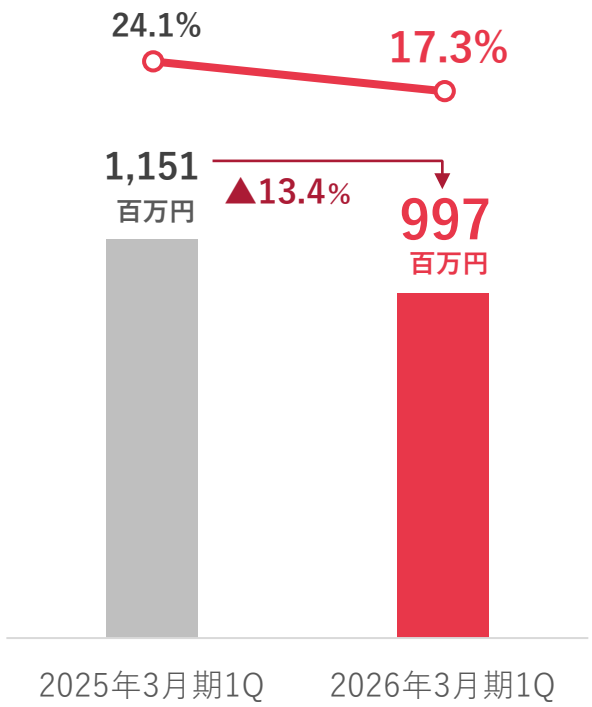
増収・減益

- 売上は、豊富な受注残高と工場の高稼働率を背景に、前年同期比20.6%の増収
- 営業利益は、前年度における半導体事業の棚卸資産計上基準の変更、また、物価高等により売上原価・販売費及び一般管理費が増加した影響で、前年同期比13.4%の減益

売上高



営業利益（率）



要因・その他

＜需要拡大＞

- パソコン・スマートフォン向け需要回復は依然鈍い反面、**生成AI市場**の需要拡大を背景に工場新設・増設など、今後を見据えた積極的な設備投資が活発化

⇒半導体市場全体の回復は2025年後半以降の見込み

＜需要拡大への対応＞

- **高付加価値製品**の開発と拡販によるマーケットの拡大
- 国内外での**増産体制**構築のための準備

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

海外売上高の伸びが大きく貢献、売上構成比では海外が6割以上を占める

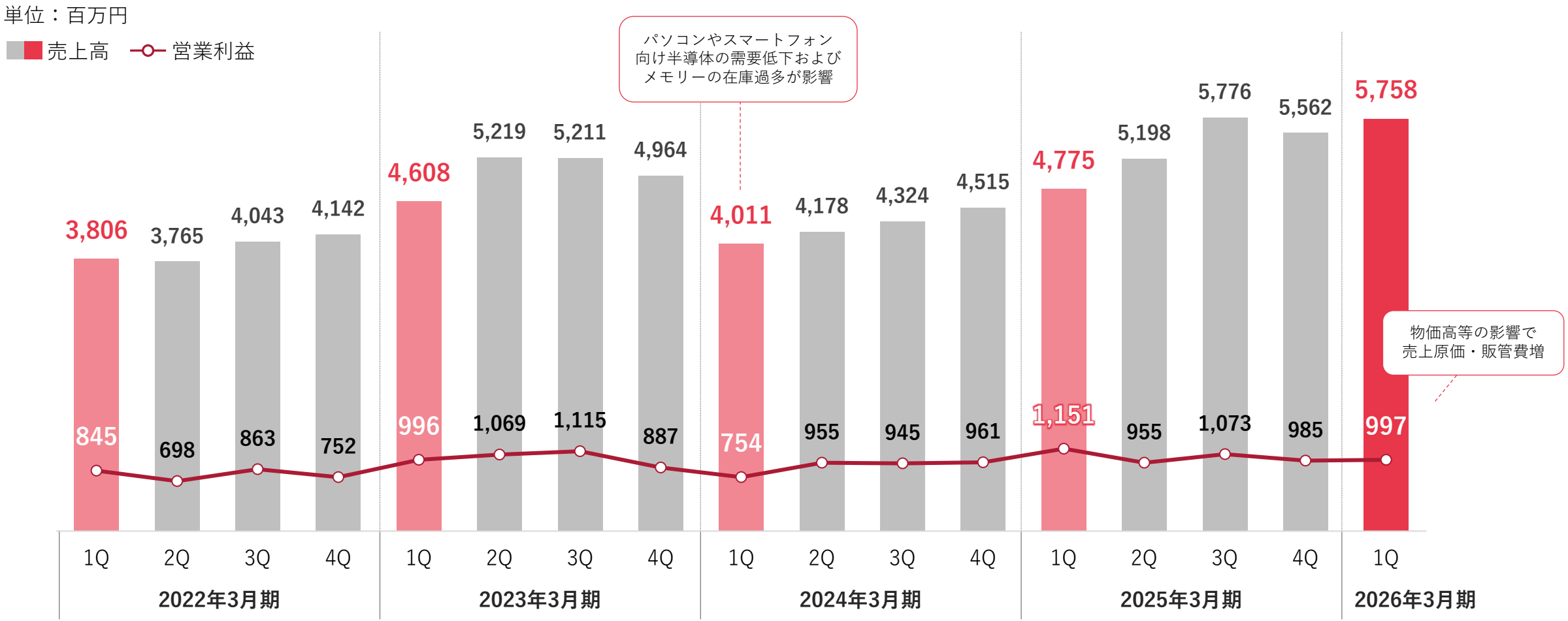
単位：百万円	2025年3月期 1Q	2026年3月期 1Q	前年同期比 増減率	前年同期比 増減額	2026年3月期 1Q 構成比
国内	2,080	2,189	+5.2%	+108	38.0%
海外	2,695	3,569	+32.4%	+873	62.0%
北米	210	281	+33.7%	+70	4.9%
アジア	2,475	3,277	+32.4%	+801	56.9%
その他	8	10	+18.3%	+1	0.2%
合計（国内+海外）	4,775	5,758	+20.6%	+982	100.0%

※ 米国関税の影響については、こちらのリリースをご参照ください。
https://www.gltechno.co.jp/ir/library/haghgb00000003vs-att/20250430_1.pdf

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

四半期別売上高・営業利益推移

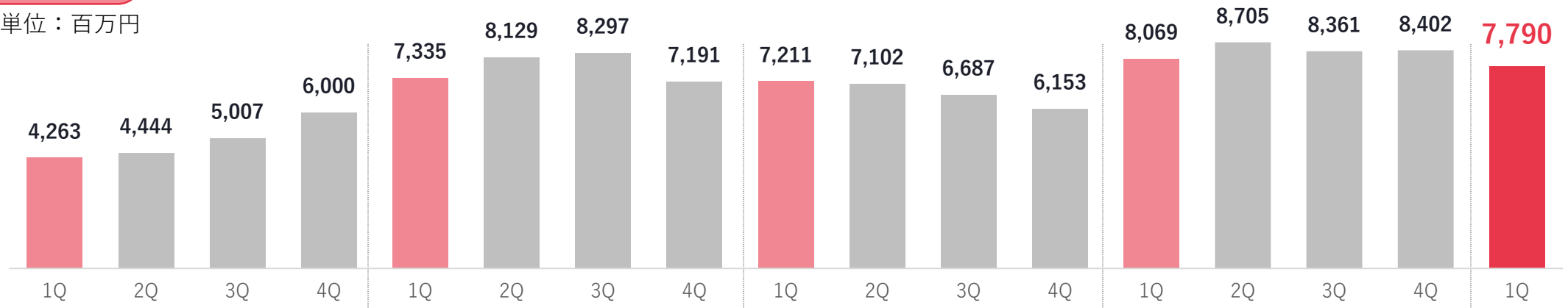
パソコンやスマートフォン向けの需要回復は依然として鈍いものの、新規需要の掘り起こしや増産体制構築に向けた設備投資などを積極的に行い、売上は順調に成長



底堅い潜在需要を背景に、受注残・受注高ともに前期に引き続き高い水準を維持

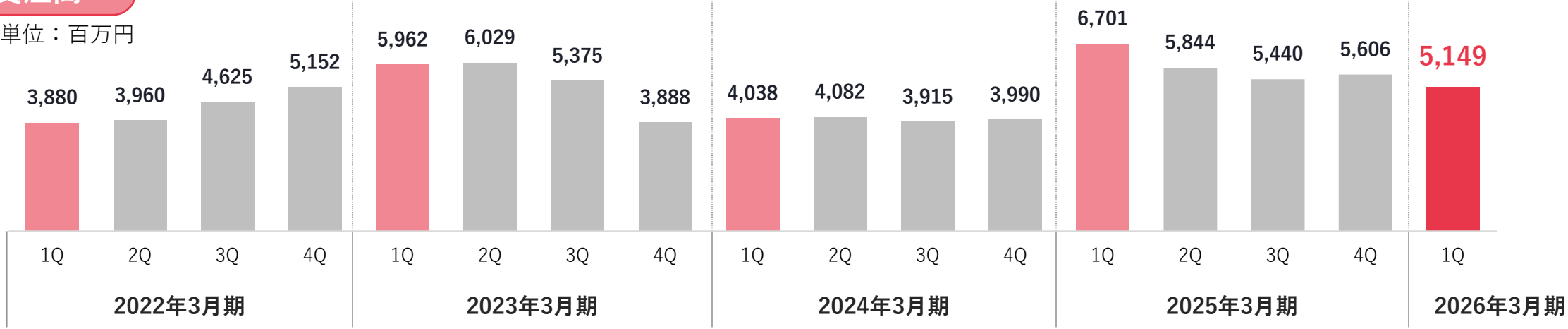
受注残

単位：百万円



受注高

単位：百万円



© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

ベトナムにおいて、現地法人を設立

半導体事業における成長戦略の方針である「持続可能な収益性の向上」「新規顧客と市場の開拓」に基づき、
当社連結子会社であるテクノクオーツ株式会社が出資し、ベトナム・ニンビン省に
TECHNO QUARTZ VIETNAM CO., LTD.（当社孫会社）を設立いたしました。

※ ベトナム新工場の完成予想図

投　資　総　額	50億円
操業開始予定時期	2027年初頭

工場新設により見込むことができる将来効果

✓ 生産能力の増強

完全稼働時における石英製品の生産能力は
年間売上高ベースで**30億円**以上

✓ アクセス強化および柔軟かつ迅速な市場ニーズへの対応

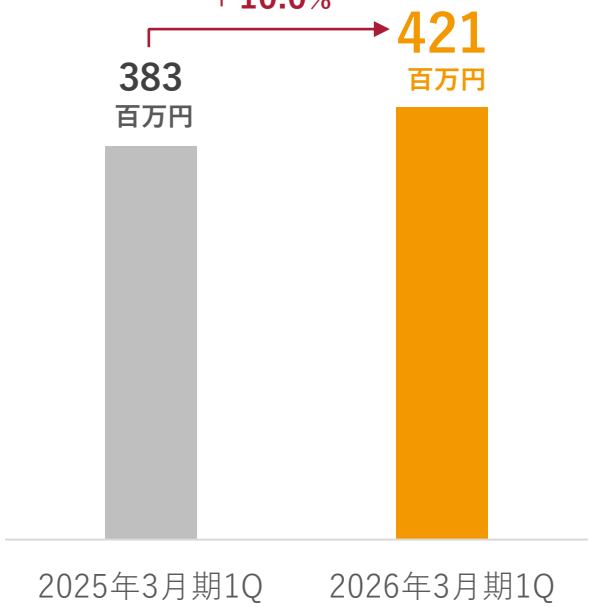
- 米国の対中半導体規制をふまえ、**供給網の多元化**と**貿易リスクへの体制強化**
- **輸送コストの削減**および**環境負担の低減**
- **豊富な労働力**と**人件費のコストメリット**活用による価格競争強化

増収・減益

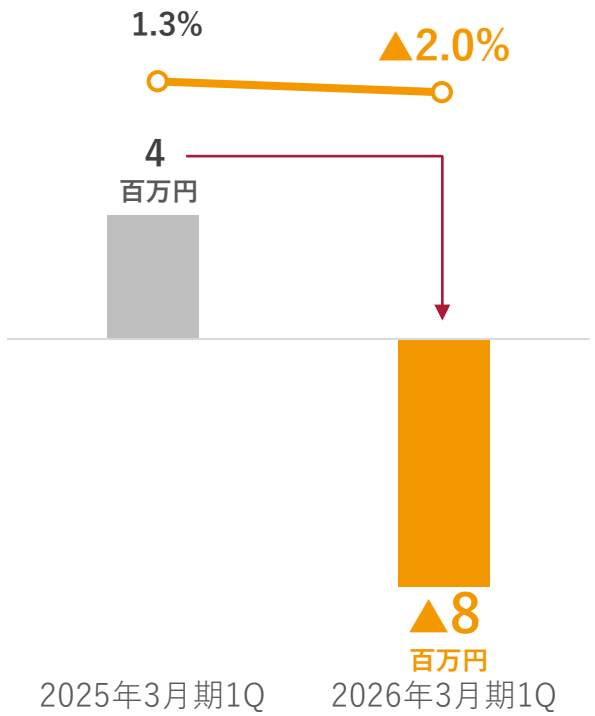
- 売上は、化学物質総合管理システムや特定顧客向けの物品管理用UHFシステムなどの受注により10.0%の増収
- 営業利益は、利益率の低い案件が多かったことに加え、成長を見据えた人材投資増の影響で減益

単位：百万円

売上高



営業利益（率）



要因・その他

＜増収＞

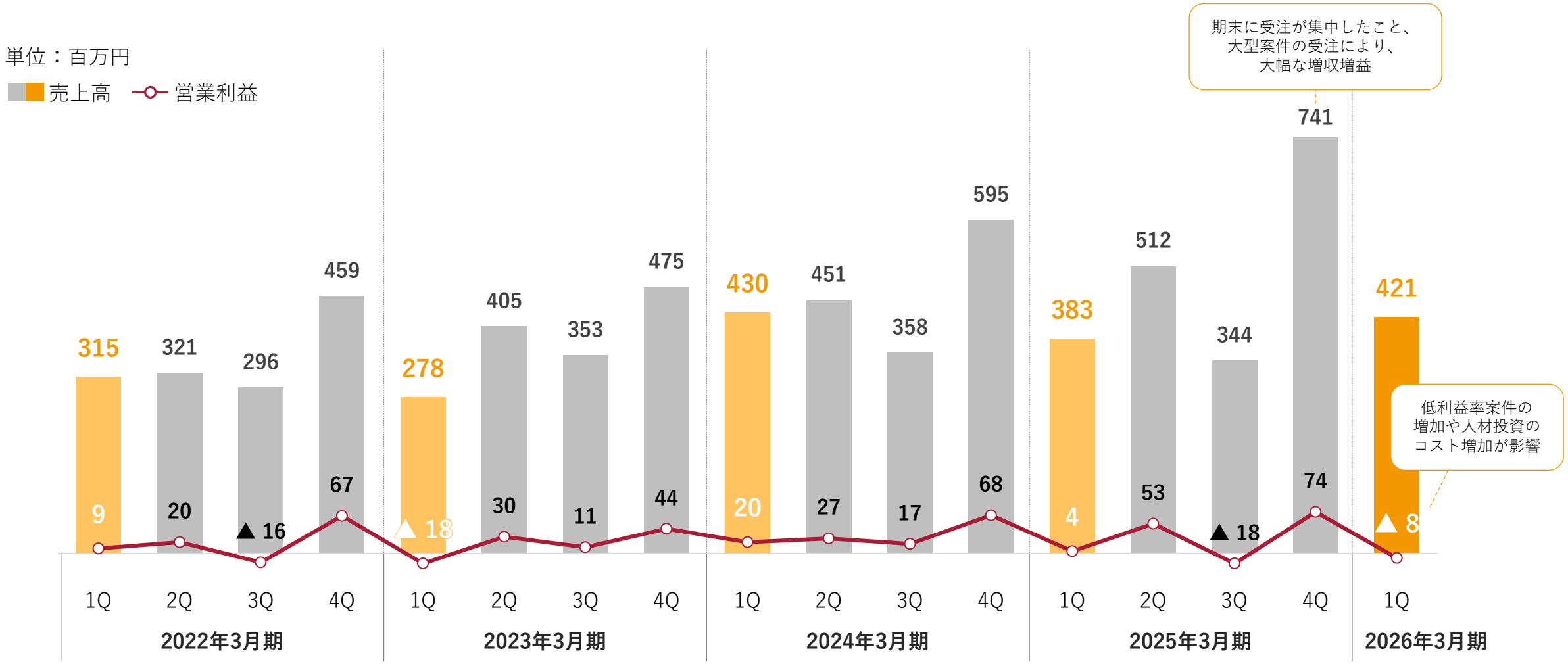
- **機器組込製品／完成系製品**
  住居関連施設やビル施設向けの需要が減少したことが影響し、伸び悩み
- **自動認識用その他**
  システム受注に加えてフィットネスクラブ向けゲートシステムや立体駐車場向けシステムの開発案件も後押しし、堅調に推移

＜減益＞

- 利益率の低い案件が多かったことに加えて、将来の事業拡大を見据えた人材面への投資増が影響

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

低利益率案件の増加や人材投資の影響等で営業利益は減益となったものの、売上は順調に推移
受注は期末に偏りやすく、下期偏重の推移



04. 業績・配当予想

2026年3月期

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

通期業績予想は前回発表時から変更はなく、 前期比増収・増益の見込み

単位：百万円	2025年3月期 通期実績	2026年3月期 通期予想※	前期比	
			増減率	増減額
売上高	43,261	44,700	＋3.3％	＋1,438
営業利益	6,344	6,680	＋5.3％	＋335
営業利益率	14.7%	14.9%	-	+0.2pt
経常利益	6,626	6,760	＋2.0％	＋133
親会社株主に帰属する当期純利益	4,064 ※1	4,810 ※2	＋18.3％	＋745
年間配当（円）	107	111	＋3.7％	+4

※1 経営統合前の上期は一部が非支配株主に帰属
※2 通期で100%が親会社に帰属
※ 想定為替レート：1米ドル＝￥150
※ 米国関税の影響については、こちらのリリースをご参照ください。
https://www.gltechno.co.jp/ir/library/haghgb00000003vs-att/20250430_1.pdf

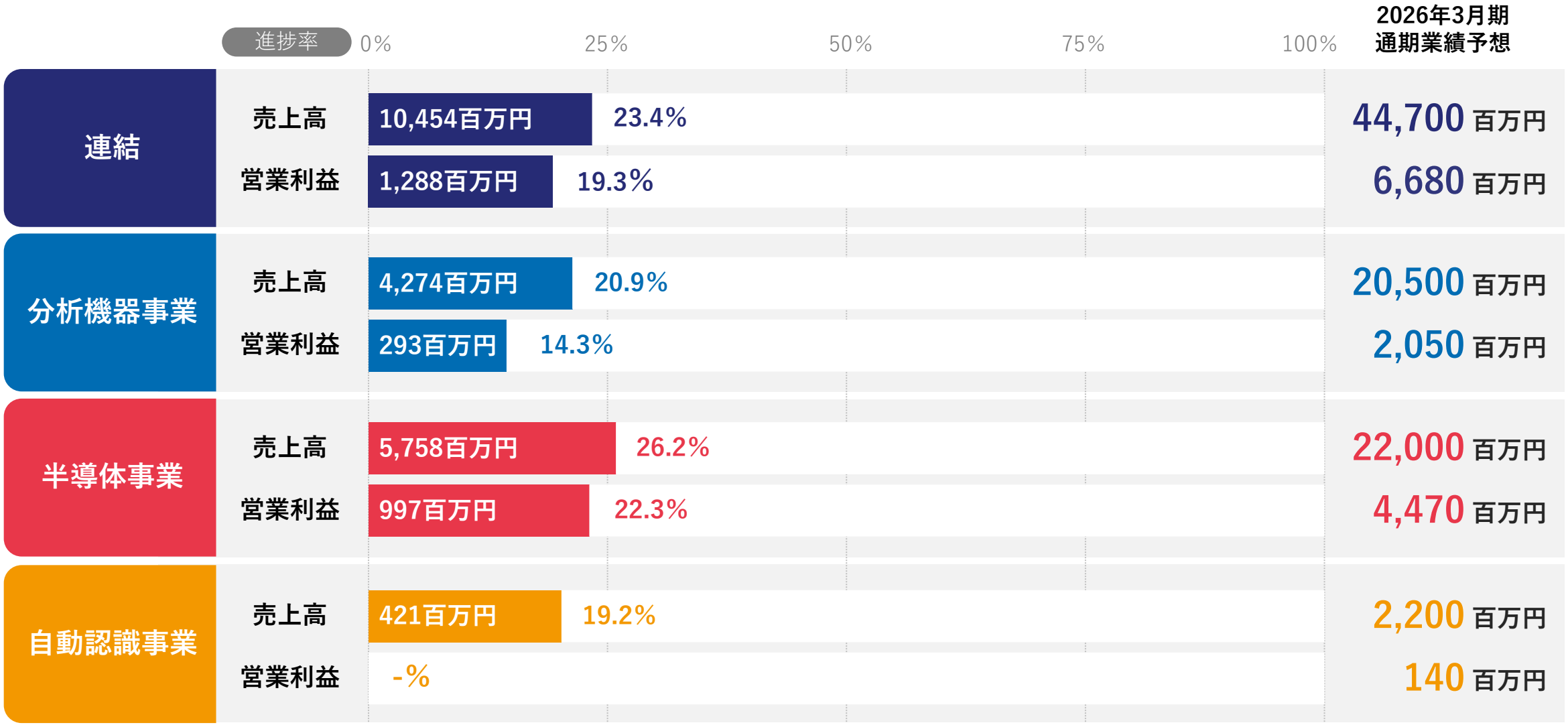
© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

2026年3月期　セグメント別業績予想

単位：百万円

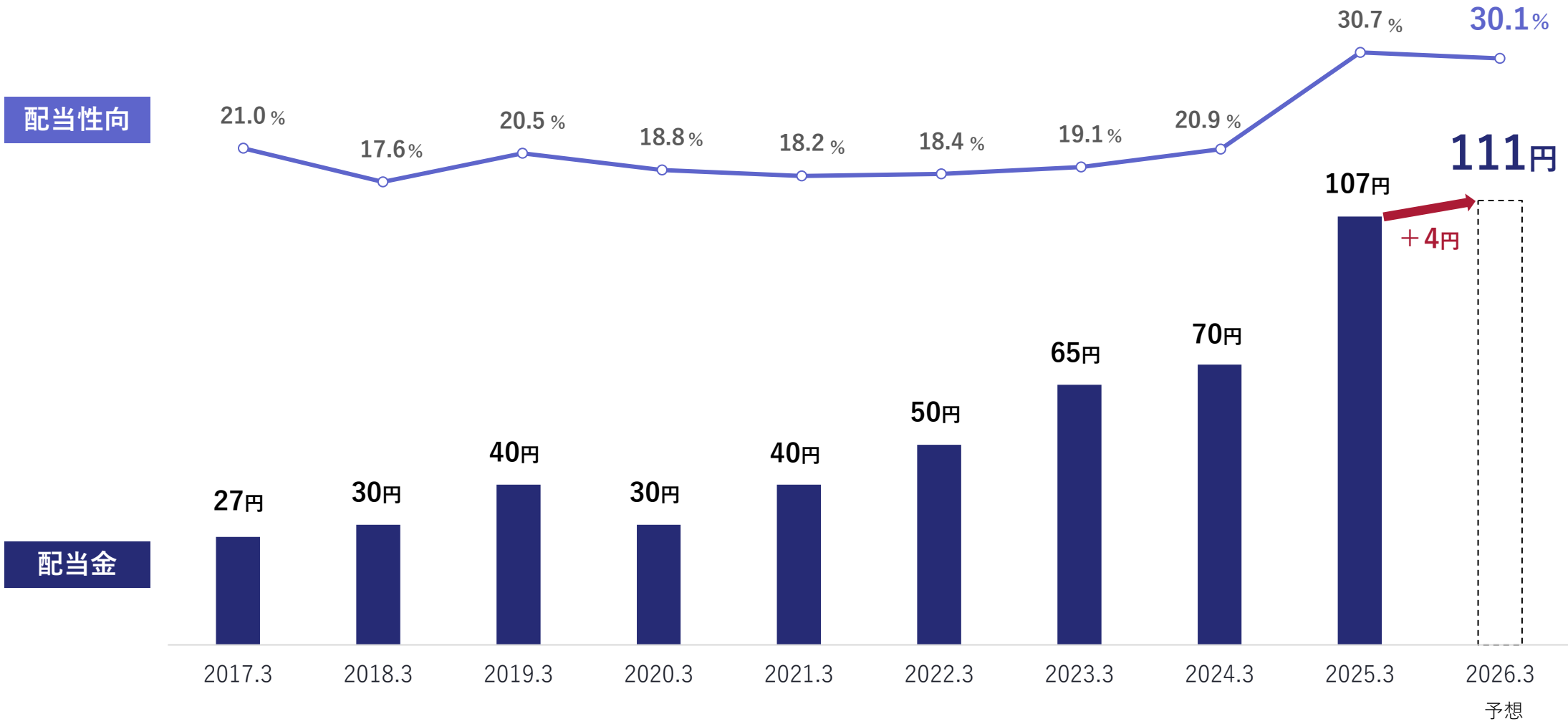
		2025年3月期 通期実績	2026年3月期 通期予想	前期比	
				増減率	増減額
分析機器事業	売上高	19,965	20,500	+2.7%	+534
	営業利益	2,045	2,050	+0.2%	+4
	営業利益率	10.2%	10.0%	-	▲0.2pt
半導体事業	売上高	21,313	22,000	+3.2%	+686
	営業利益	4,167	4,470	+7.3%	+302
	営業利益率	19.6%	20.3%	-	+0.7pt
自動認識事業	売上高	1,982	2,200	+11.0%	+217
	営業利益	115	140	+21.6%	+24
	営業利益率	5.8%	6.4%	-	+0.6pt

連結、各セグメント共に、概ね計画通りに推移



© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

目標である配当性向30%を維持、2026年3月期は4円増配の見込み



© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

05. APPENDIX

会社名	ジーエルテクノホールディングス株式会社
設立	2024年10月1日
代表取締役社長	長見 善博
本社所在地	東京都新宿区西新宿六丁目22番1号
資本金	300,000千円
連結従業員数	1,192名（2025年3月31日現在、パートタイマーを除く）
連結売上高	43,261百万円（2025年3月期）

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

［ミッション］

存在意義

人と社会の可能性を触発する

ジーエルテクノグループは、創業当初より「信頼し合える仲間が集まり、人がこの世に生まれた意義を追求すること」を根本精神としており、組織の成り立ち自体が、人がもつ可能性を触発する挑戦でもあったといえます。 自らの成長のみならず、産業や社会の発展の可能性をも触発する存在でありたい。その思いは今も変わることはありません。私たちは創業の理念を受け継ぎ、その使命に向かって挑戦し続けます。

［ビジョン］

将来目指す理想の姿

枠にとらわれない自由な価値創造に挑戦する

ジーエルテクノグループは、創業より半世紀を超える歩みを重ねてきましたが、
前例や既成の事業領域に縛られることなく、グループを構成する一人ひとりが自身で思考しながら、
新しい価値創造に取り組んでいきます。

［コーポレートメッセージ］

企業メッセージ

Search for a Way

次のイノベーションのそばに。

お客様のために、社会のために。そして自分たちの成長に向けて、常によりよい手段・手法を探し続けていきます。いつの時代も科学の発展と人々の暮らしを支え、社会に貢献していきます。

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

経営統合により成長機会を捉え、投資判断スピードを加速。さらなる企業価値向上を目指します。

GLTECHNO HOLDINGS （2024年10月設立）

経営効率の向上　最適な経営資源配分　意思決定の迅速化

ジーエルサイエンス株式会社

（1968年設立）

分析機器事業

クロマトグラフィーの技術であらゆる分析を支える

分析装置とカラムなど消耗品の企画・開発から販売・サポートまで一貫対応し、多様な産業の成分分析を幅広く支えています。

クロマトグラフィー関連消耗品

ガスクロマトグラフ

試料前処理装置

テクノクオーツ株式会社

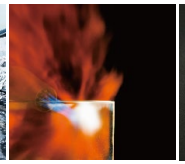
（1976年設立）

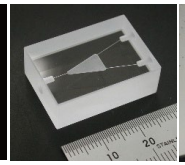
半導体事業

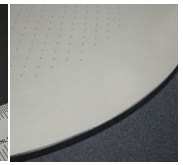
最先端の加工技術で世界の半導体製造を支える

半導体製造装置向け高純度石英ガラスと結晶シリコンパーツの製造販売を主力に、高品質なモノづくりに取り組んでいます。

機械加工


火炎加工


拡散接合


シリコン加工

ジーエルソリューションズ株式会社

（2013年設立）

自動認識事業

非接触IC カード技術でより快適な社会を実現する

非接触でICタグを読み書きする自動認識技術（RFID）のパイオニアとして、先端技術を駆使し情報化社会の進化に貢献しています。

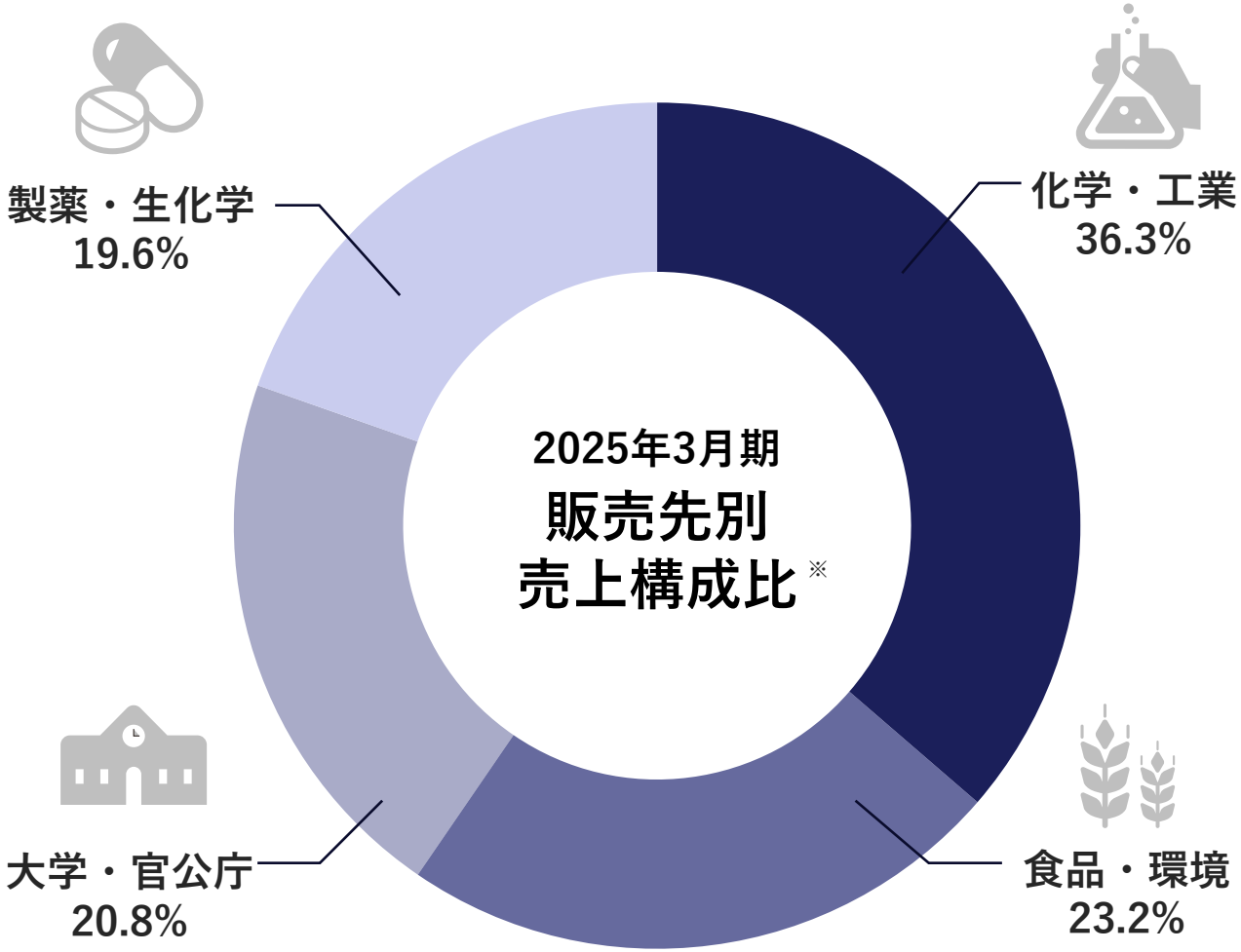
機器組込型リーダライタ

壁付型リーダライタ

鍵管理ボックス

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

当社の安定的成長を支える分析機器事業は、幅広い分野で社会に貢献



多種多様な顧客基盤

※ジーエルサイエンス株式会社単体の日本国内向け販売先別売上構成比

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

詳細はこちらの中期経営計画資料をご覧ください。 https://www.gltechno.co.jp/ir/management/c0copc0000000ceo-att/plan2025-2027_all.pdf

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

NETWORK 世界に広がるグループネットワーク

ジーエルテクノホールディングス株式会社

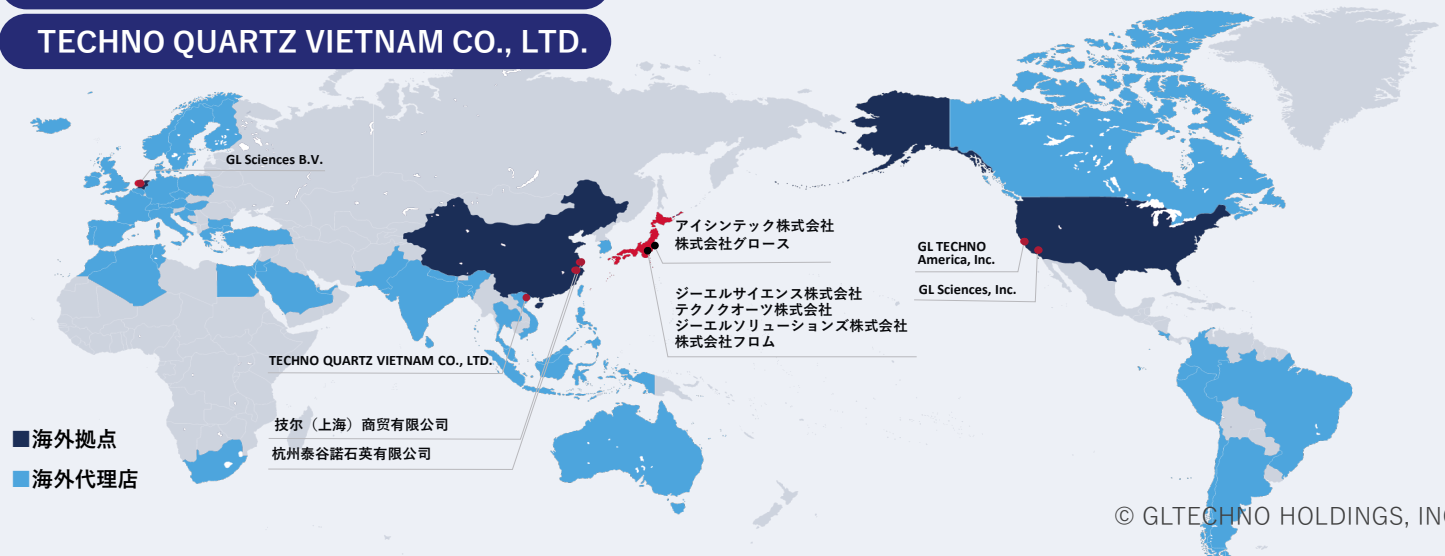
ジーエルサイエンス株式会社
東京都新宿区西新宿6-22-1　新宿スクエアタワー30F
設立 1968年2月

- 株式会社フロム
- 株式会社グロース
- 技尔（上海）商貿有限公司
- GL Sciences B.V.
- GL Sciences, Inc.

テクノクオーツ株式会社
東京都中野区本町1-32-2　ハーモニータワー12F
設立 1976年10月

- アイシンテック株式会社
- 杭州泰谷諾石英有限公司
- GL TECHNO America, Inc.
- TECHNO QUARTZ VIETNAM CO., LTD.

ジーエルソリューションズ株式会社
東京都台東区松が谷1-3-5　上野イーストビルG1
設立 2013年4月



© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

基本理念

ジーエルテクノホールディングスは、『真に社会性のある企業への成長』という「企業理念」のもと、社員が働くことへの幸せを感じる環境作り、持続的企業発展のための創造や挑戦、製造改善や新技術による環境問題への取組を通じた社会 貢献を行っていきます。また、得られた利益は「会社・株主・社員・社会」に公正に分配し、技術や利益をもって 「地球と社会の持続可能な発展」へと貢献します。
『道は一つ、共に進もう』を永久スローガンとし、ステークホルダーと共に社会課題解決に取り組んでいきます。

基本方針

①持続的な企業価値の向上

変わり続ける事業環境の中で、レジリエンスを高め柔軟に対応することで、競争力および生産性の向上を実現します。

②環境保全への貢献

気候変動への対応、循環型社会への取組など、ステークホルダーとの協働・共創を推進し、より良い未来の実現を目指します。

③事業を通じた社会課題の解決

本業の活動を通じて、社会貢献を持続的に推進します。

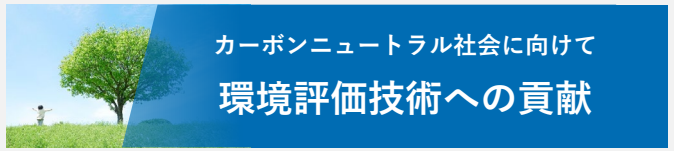
④企業活動を支える人材の育成と活躍の推進

お客様の課題解決のために挑戦を続け、社会に貢献できる人材を育成しやりがいと誇りをもって安全・健康に働くことができる環境を提供します。

⑤ガバナンス体制の強化

法令をはじめとした社会のルールを遵守するだけではなくすべてのステークホルダーからの期待に応えるよう努めます。

製品・サービスの提供を通して、健康で安全・安心な暮らしを支えます。



カーボンニュートラル社会に向けて

環境評価技術への貢献

次世代エネルギーやカーボンニュートラルの分野では、研究の成果を評価したり、エネルギー効率を判定するために、水素やアンモニアなどの分析が必要となります。ジーエルサイエンス株式会社は、お客様のニーズに応じたオーダーメイドの特注装置を開発・製造・販売することで、カーボンニュートラルな社会の実現に貢献しています。

より健康に生活できる社会に向けて

PFAS分析への貢献

有機フッ素化合物(PFAS)は、フッ素系の撥水剤、防水剤、グリースなどに使われており、分解されにくく環境中に長く残ると言われている物質です。ジーエルサイエンス株式会社は、水道水、飲料水、排水、食品中のPFAS分析に関する製品・サービスを提供することで、健康で安心な社会に貢献しています。

安心・便利なデジタル社会のために

半導体への貢献

半導体はインフラ整備や安全保障にも大きく貢献しており、私たちの生活に欠かせない存在です。その半導体製造装置の部材には、熱に強く薬品に侵されにくい素材が使われています。テクノクオーツ株式会社は、加工が難しい素材を、高い精度で加工した部材を提供することで、安心・便利な社会の実現に貢献しています。

もっと安全・安心が守られる社会へ

デジタル活用への貢献

マイナンバーカードは、身分証明書として使えるだけでなく、自治体サービスやe-Taxなどの電子申請にも利用できるカードです。ジーエルソリューションズ株式会社は、電子申請や健康保険証利用時にデータを読み込む機器を提供することで、安全で便利なデータ共有ができる社会の実現に貢献しています。

© GLTECHNO HOLDINGS, INC.

GLTECHNO HOLDINGS

ジーエルテクノホールディングス株式会社
〒163-1130 東京都新宿区西新宿6-22-1
TEL ： 03-4212-6677
URL：https://www.gltechno.co.jp

免責事項

本資料に記載されている資料には、将来に関する業績の見通しを含みますが、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々なリスクや不確定要素に左右されるため、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。
本資料の著作権は、ジーエルテクノホールディングス株式会社に帰属します。事前の承諾なしに著作物を使用することはできません。